

自ら培った三つの力を発揮し、社会をよりよくしようとする生徒の育成

—学びをつなぎ 地域・社会とつなげ 未来につながる ESD の実践を通して— 豊橋市立南稜中学校

〈目指す生徒像〉

- ・社会のさまざまな問題を自分の問題としてとらえ、よりよく解決していく生徒

〈研究の仮説〉

- ・学びを支える学校内外のさまざまな教育環境・教育活動をつなげ、ESD で育てたい三つの力（見つめる力・関わる力・動き出す力）を培うための授業の工夫をすれば、持続可能な社会の担い手として必要な力が身につくとともに、自分の可能性を最大限に生かしながら社会に貢献しようとする生徒が育つであろう。

【研究のてだて1】 学びを支える教育環境・教育活動の工夫

ESD カレンダー・SDGs 実践計画表 ESD で育てたい「三つの力」系統表

ESD カレンダーは、大崎小と形式をそろえ、教科と総合的な学習の時間がどのようにつながっているかを視覚的にとらえられるようにした。

SDGs 実践計画表は、中学校3年間で17のゴールが網羅できるように、各教科や委員会活動、学校行事で関連するものを一覧表で示した。

ESD で育てたい「三つの力」系統表は、小中9年間を見通し、中学生の目指す姿を「見つめる力」「関わる力」「動き出す力」に分けて示した。

これらを作成することで、担任が授業する際に総合とのつながりやSDGsを意識して指導できるようになり、授業を効果的にすすめられるようになった。また、生徒も授業の内容がSDGsとどうかかわっているのかがわかり、持続可能な社会の実現のために必要な知識を得たり、自分ならどう行動するかを考えたりするきっかけとなっている。



ESD パスポートの活用 地域貢献ボランティア・梅田川フォーラム

2018年度より地域連携・地域協働活動として、「地域貢献ボランティア」「梅田川フォーラム」を展開している。「地域貢献ボランティア」では、生徒会の中に「ボランティアセンター」を設立し、校区からの依頼や生徒発案のボランティア活動をよりよく実現するために、生徒の手で選定・改案している。これまでの実績として、吹奏楽部の出前演奏や小学生の宿題サポート、校内の草取りやペンキ塗りなどがある。「梅田川フォーラム」では、これまで地域の有志の手で行われていた梅田川の環境保全活動を引き継ぎ、ごみ拾いや水質調査を行っている。2021年8月のクリーン作戦では、中学生、小学生、保護者、自治会関係者総勢200名が参加し、550kgのごみを回収した。これらの2種類のボランティアは豊橋ユネスコ協会が配付するESDパスポートに各自で記録し、15・30 ボラン達成者を表彰している。



ESD 委員会の新設

総合的な学習の時間だけでなく、学校全体でこれまで以上にESDをすすめていくために、委員会組織を再編した。本年度新しく立ち上げたESD委員会では、SDGsと結びつけて各種募金活動やエコキャップ運動を行う。これらの活動は以前から南稜中学校で行われていたが、今の世界の状況や活動の目的を全校生徒が理解したことにより、回収量も増え、より主体的に取り組めるようになったことがわかる。2021年6月に行われた「エコキャップ回収キャンペーン」では、縦割り団ごとに回収量を競い、1週間で200kgのエコキャップを集めることができた。また、この活動が植田小児童による自主的な活動にも発展し、今後ますますの広がりが期待できる。これ以外にも、集会でユニセフの動画を紹介したり、SDGsに関するポスターをつくって校内に掲示したりすることで、一人一人が持続可能な社会の担い手になれるよう、活動に取り組んでいる。



【研究のてだて2】 三つの力を培うための授業の工夫 ～梅田川を題材とした3年間の総合的な学習の時間～

1年生

梅田川にふれるー故郷の自然を再発見ー

●梅田川の問題に気づき、自分たちに何ができるか考えはじめる生徒たち

梅田川ウォッチ(校外学習)に出かけた生徒たちは、カニやハゼなど豊かな生態系を感じる一方で、泥のにおいや大量のごみの存在から、川が汚れていることに気づいた。どれくらい汚れているのか、どうして汚れてしまったのかについて、図書資料や現地調査、市環境政策課の出前授業などを通して、個々の課題について追究を深めていった。バックテストによる水質調査や捨てられているごみの種類と量を調べることで、梅田川の現状を客観的に捉えることができた。

1年間の調査活動を壁新聞にまとめ、縦割り団の2年生に伝える活動を通して、梅田川をきれいになりたいという思いをさらに高めた。そして、自分たちに何ができるか、その具体的な方法について話し合い、2年生につなげることになった。



2年生

梅田川とともに生きるーわたしたちにできることー

●梅田川の問題を解決するために、さらに調査を続けていく生徒たち

1年生での学びを土台に、個人の追究テーマごとにクラスを解体し、同じテーマについて学ぶ「学年総合」で授業を実施した。

- ①上流と下流の違い調べ(生物・水質・ごみ)
- ②河口部(大崎)干潟での生物調査
- ③梅田川氾濫を想定した防災対策

テーマ①では、実際に水質調査を行い、中流域(二川)の方がCODが高いことがわかり、その原因を追究した。テーマ②では、大崎小4年生と合同調査を行った。自然史博物館学芸員の協力を得て、外来種が増えてきていることを知った。

12月に大崎小とのオンライン交流「梅田川サミット」を実施し、1年間の学びを発表しあい、ともに梅田川を守っていくことを約束した。年度末、梅田川のためにできることを4つにしばり、3年生につなげることになった。



3年生

梅田川を未来へつなぐー持続可能な社会の実現にむけてー

●問題解決のため学年一丸となって動く生徒たち

2年生のときに考えた、梅田川をきれいにしていくための4つの作戦を実行に移した。

- ①企業や高校と連携した鉄炭団子による水質改善実験
- ②小学生や地域住民と一緒に梅田川クリーン作戦
- ③梅田川の現状を多くの人に知ってもらうための情報発信
- ④SDGs パーフェクトガイドの作成

作戦①では、衣装ケースを使ったミニ梅田川や植田小観察池での検証実験の結果、水質改善に効果が見られることを確認できた。作戦②では、中学生と地域住民が協力し、みんなで自然を守っていこうという意識が向上した。作戦③では、駅や市民館へのポスター掲示、すぐろくやPR動画の作成、ユネスコ交流会での発表を行った。

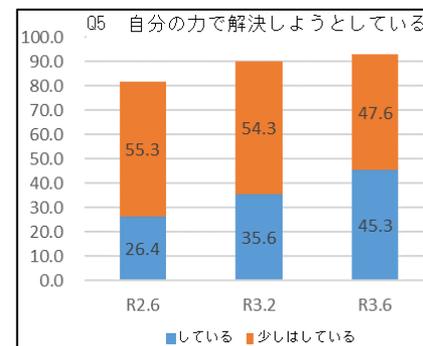
これらの活動を通して、多くの生徒が自分の活動に達成感を得るとともに、これからの生活でも持続可能な社会の実現のため、自分にできることを考え、実践しようという思いを高めることができた。



【研究の成果と課題】

右の生徒アンケートの結果によると、「難しいことがあったとき、自分の力で解決しようとしているか」という質問に対して、「している」「少ししている」と回答した生徒の割合が、約80%から約93%に上昇している。これはESDで育てたい3つの力(見つめる力・関わる力・動き出す力)を意識し、学校全体でESD活動に取り組むとともに、生徒の学びを支える教育環境・教育活動を工夫したからだと考えられる。また、「梅田川の問題を自分の問題としてとらえ、自らすすんでその解決法を考えたり、行動したりすることができたか」という質問に対しては、約86%の生徒が「できた」「ややできた」と回答し、生徒たちが主体的に総合的な学習に取り組んでいることがわかる。活動後のふり返りには、「テレビなどで汚れた川などを見るけど、それが身の回りにまで広がっていたことを知り、他人事で見ることなく、ちゃんと現実として受け入れられた」「水質改善はまだ途中ですが、これ以上汚くならないように、ポイ捨てや油の使いすぎに注意したいです」といった記述が見られ、多くの生徒が梅田川的环境学習をきっかけに環境問題を自分事として捉え、その解決に向けて動き出していることがわかる。

今後の課題としては、梅田川を題材とした学習が継続的に行われるよう、授業案や水質調査の結果を蓄積するとともに、令和5年度より始まる小中一貫教育に向け、中学校区すべての小学校との連携を深め、同一歩調でESDをすすめていきたい。



〔生徒アンケートの結果〕

※本資料は「第11回ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト」の助成を受けて作成されました。